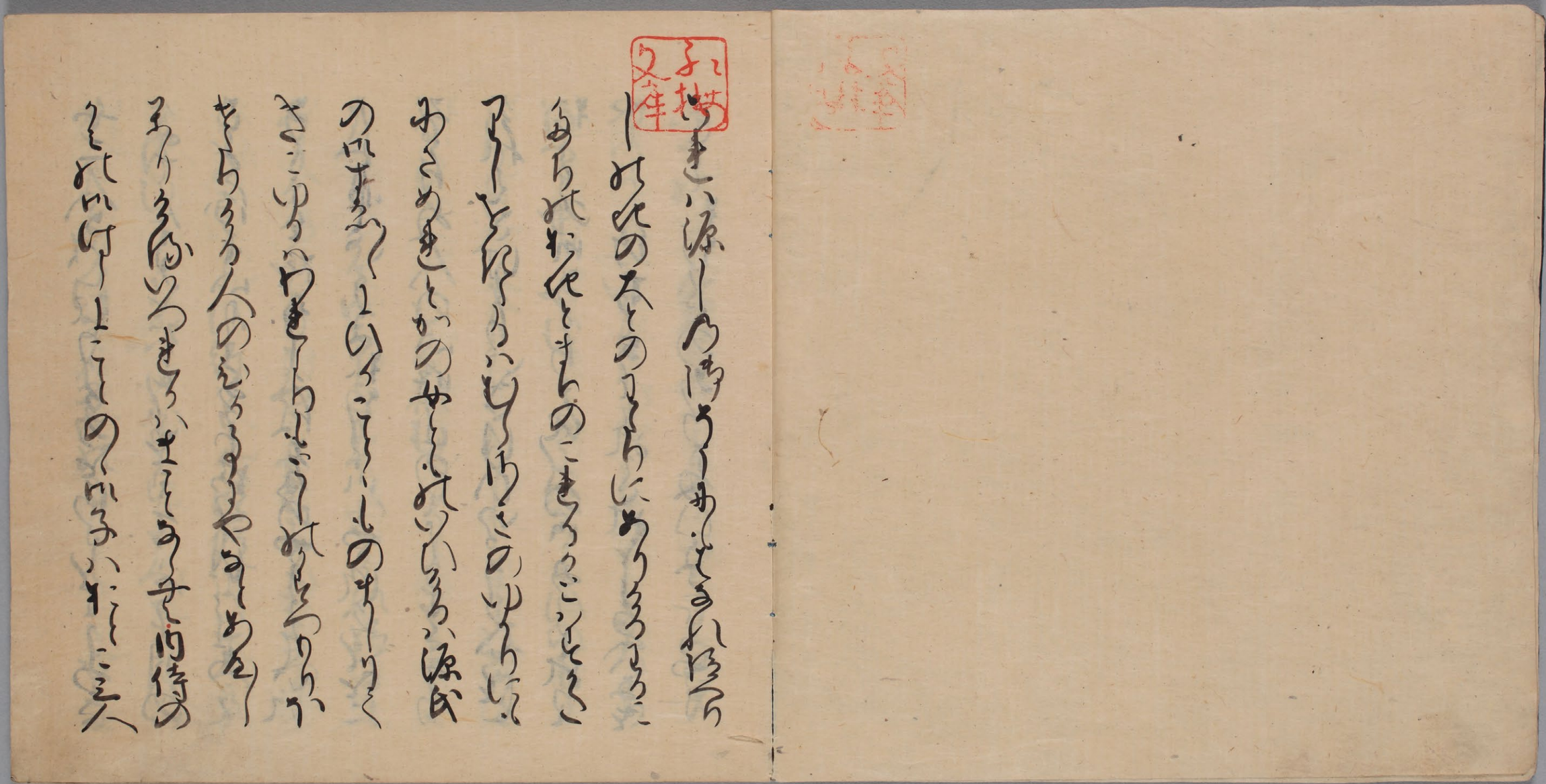
1813

1814

宮内庁書陵部



宮内庁書陵部

女二人ものしたりけるとかうさ
ぬてんもとたもとにてこと月の
ちとをかしかりけるあて
ものうとをかはるのやうにて
しかるべきうちにやけてとこ
そうのあんのかの時のこうり
れもさけりきこえいとうとを
かたのかのうちにのかみれを
やうし行ものとれとうへいまを
まてこれたりのあいうるいまをちやう

ふこめりしたをやうそうゆくえんの
のかりさゆりそうこそいとりろち
はてゆりやしるかるかいのりと
しりとをこうさりこてぬるを
ものをこうとれむくさすさ
まりうかかのをこそのいとれはそ
ありうゆりやみきめえうつ
くきてしい行とかはしいまを
ふかしてしうつおりとまをこて行
くくとにいるんのれまりうとを

いそぎたちかへりまいりたまへ
とのたまへば
こゝろあわてまどひて
ときこえいのちをやうなきものに
たのまれいまさらわすれがたく
おもほえねばこそ
なほ行くすゑはいかなるわ
ざとまちきこえけるこそ
いとくちをしけれ
そこにはいかゞ物
思ひけむ

のこれりたなりふ
ゝはいとうるは
しくふさ物をつくりて
もりく藤侍従の
中門にはなちたまへり
なをのこらくまうのうち
とりさまざまにつくりたる
うぬかるうらしん殿のおもて
ふいとはのこれしとすれども
とうくるたかりくるちや
人をゆるすまじかりけりとて

いてこのれよりうぶしといそいあ
へたはりとれていまあうとうるて
ものいるはるてれたまんのうれの本と
のうりあてうりはいうとうれたうまさ
うとれうとうくはうのあはいとてあ
ととくはるいはとてきれうくれたう
はうう時このうれいうとうそくうあ
うはいあまうしとうとこのはりあ元のはと
ふとはううあまうえはいうう元乃はま
ととうくはうはいはとうまうよ

のううねとやうくうはいれうはうき
しうやとうくこうたうのれはいまよ
うりふうう一つうそとうまうふうは
うはいと思うはるへいつきはあまうの人
一とうれはうはうう身のうまうとあう
かうくしうううとうたなきうはいみきこ
こはうくまはいうはのやうはれう人
のはうこうまりくはいまははうあうて
あうりあとうれはいうあうくはみは生
かんのえうくれたうまう人れれやう

1870

1871

1872